

日研生 日本語科目シラバス（秋学期）

授業名	学期	授業内容	教材	成績評価方法
総合日本語	秋	中上級学習者を対象に、日本語を使って社会科学分野の知識を身につけるとともに、総合的な日本語力を身につける。学期中に3回の筆記試験を行う。課ごとに予習クイズ、宿題を課す。スピーチやポスター発表などの発信型の活動も行う。	『日本をたどりなおす29の方法』東京外国语大学国際日本研究センター	平常点（活発な参加・取り組み）10%、筆記試験45%、発表15%、予習クイズ15%、その他課題（宿題等）15%
日本語読解演習	秋	様々なトピックに関する文章の読解を通して、中上級レベルの読む力、考える力を高めていくことを目的とする。授業では読み物内の語彙、文法について詳しく学んでいく。課ごとに語彙の小テストを実施する。また内容に関する復習テストを2回行う予定である。	配付教材	平常点（授業への取り組み）20%、課題提出15%、小テスト15%、筆記試験50%
日本語文章表現	秋	基本的な作文の書き方、文章表現を学び、理論的な文章が書けるようになることを目標とする。提出作文を添削することによって、その問題点を把握し、文法的に正しいだけでなく、書く文章の目的にあった表現方法・構成も学んでいく。学期後半で各自の定めたテーマでレポートを作成する。レポートは完成させることだけではなく、作成過程も重視する。	配付教材	平常点（グループ活動への活発な参加、課題への集中した取り組み等）20% 作文課題（宿題を含む）30%、最終レポート50%

日本語聴解演習	秋	大学の講義や研究発表などを聞く力を持つために、様々なテーマの論理的・抽象的な話を聞いて、概要や論理構成を捉える練習をする。また、聞き取った内容の要点をまとめる練習も行う。	配付教材	平常点（参加度、授業内の発言、取り組みの姿勢等） 30%、課題（要約等）50%、 まとめテスト20%
日本語口頭表現	秋	日常生活でよく使われる中上級の表現を使い、待遇関係に注意しながら、まとまった量の会話を滑らかにできることを目指す。会話でよく使われる表現や技術についての知識を身につけ、運用できるように学習する。発表に関しては3回の発表を通して、さまざまなタイプの発表をオーディエンス目線でわかりやすくできることを目指す。	『シャドーイング日本語を話そう！中～上級編』、配付教材	平常点（参加態度）20%、クラス内の課題20%、発表30%、小テスト10%、シャドーイングテスト20%

日研生 日本語科目シラバス（春学期）

授業名	学期	授業内容	教材	成績評価方法
日本語読解演習	春	様々なジャンルのテキストを読み、社会生活や学術的な場面に対応できる読解力を養うことを目的とする。授業では、読解ストラテジーを活用した練習や、読んだ内容を他者に説明する「再話」活動を行う。これらについて、学期中に2回の筆記試験を実施する。また、1学期を通して自分で選んだ書籍を読み進め、学期末に紹介する活動も行う。	配付教材	平常点（授業への参加態度） 20%、課題20%、筆記試験 40%、書籍紹介20%

日本語文章表現	春	日本語・日本文化研修留学生（日研生）が修了論文を執筆するうえでの必要事項を学ぶ。論文の構成、資料の用い方、発表練習（中間及び最終）、要旨の作成等が含まれる。	配付教材	平常点（活発な参加・取り組み組み等）25%、課題（宿題・発表等）75%
日本語口頭表現	春	言いたいことを簡潔に表現する練習と、ディベートなどを通じ、相手の意見を受け止めた上で自分の主張を繰り広げる練習を行なう。	配付教材	授業への参加態度、授業内の課題

日研生 日本文化科目シラバス（秋学期・春学期）

授業名	学期	授業内容	教材	成績評価方法
日本事情C I	秋	外国人が学ぶ日本語と、日本語母語話者が日常的に使っている日本語にはどのような違いがあるだろうか。それは日本語母語話者と接することで分かことが多い。この授業は日本人学生との口頭表現活動を通じ、日本人が実際の日常生活・日常会話で使っている生の日本語に接しながら、自身が学んだ日本語との違いや、考え方や言葉遣いに関する日本人との違い、そして自然な日本語口頭コミュニケーションについての理解を深める。	配付教材	課題（レポート全10回）60%、授業参加度40%

日本文学概論	秋	文学には、その国の歴史や思想が自ずから現れる。この授業では、まず文学を支える文字についての考察をし、その後、時代に即して貴族の文学・武士の文学・町人の文学を概観し、それぞれの特徴や代表的な作品について学ぶ。学期後半には近現代小説を取り上げ、その読解を通して日本語力と鑑賞力を磨く。	配付教材	平常点30%、課題（宿題・発表・レポート等）70%
地域実見 －岐阜を 知る－	秋	岐阜地域は日本列島の中央に位置して穏やかな気候に恵まれ、特色ある文化をはぐくんで、それを現在に受け継いでいる（日本遺産第1号にも認定される）。この授業では、岐阜地域の歴史や文化について講義を聞くのみならず、史跡・博物館等を実際に訪問することにより、体験的に地域認識を深める。	配付教材	小レポート100%
言語学入門	春	この授業は、日常での、なんとなく「おかしい」「おもしろい」「気になる」日本語をテーマに取り上げ、その実体に関わる「日本語のしくみ」について考える。日本語母語話者が、普段あまり意識していない、日本語の規則性・体系性について学ぶ。日本語を分析・考察するために、言語学の基礎知識を学び、受講者が学習してきた言語や、留学生がいる場合、留学生の母語を比較対照する。	配付教材	最終試験40%、授業活動への参加度20%、予習・復習課題40%

日本文化への いざない	春	日本文化を、実際の体験と講義を通して学ぶ科目である。取り上げる内容は、能楽（能・狂言）、雅楽、茶道、郡上踊り（岐阜県郡上市に伝わる風流踊り、ユネスコ世界遺産）などである。その文化が育まれた背景や自国の類似の文化事象との比較などについて考察を深める。	配付教材	授業・各種活動への参加度50%、レポート・発表等課題50%
論文指導	春	日研生修了論文の完成に向けて、ゼミ教員の指導を受ける（週1回以上）。テーマ設定、資料選定、論文構成、論文執筆の各段階を着実に積み上げる。論文チューター（日本人学生）との相談、助言も有効に活用する。		ゼミでの活動（週ごとの課題の達成度）、自主的な研究態度

※春学期は、上記日本語科目・日本文化科目の他に、「全学共通教育科目」を選択必修する。